

PREMIUM
EDITION

プレミアム版

日経ドラッグインフォメーション

DI

11
NOV. 2025

特集

使用率9割に到達 後発品推進の現在地



症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで

骨粗鬆症

TREND

片頭痛治療、
ゲパント登場でどう変わる？

日経DIクイズ

抗ウイルス薬が処方されなかった水痘の小児

ライブ配信  カレッジ 詳しくは本誌16ページ

- ・今月のプレミアム版クロズアップ「医師と考える薬学マネジメント」
- ・在宅患者の見かた「苦手意識を克服！在宅でのオピオイド」他

プレミアム版限定コンテンツ

PE001 特集

使用率9割に到達 後発品推進の現在地

2024年10月、長期収載品の選定療養が導入されると、一部品目が供給不安に陥った一方で、後発医薬品の使用割合は瞬く間に90%の大台に乗った。この“新風”が吹き込んだ1年を振り返りつつ、後発品推進の現在地を探った。



PE002 動向編 制度開始から1年
長期収載品の選定療養、効果と実態

003 Inside*Outside

生成AIの進化で考えた「患者に寄り添う」意味

009 NEWS Pickup

マグミット錠100mgなど5成分11品目の薬価収載を了承 他

012 ウェブサイト「日経DI」PICK UP

ループス腎炎治療の新たな選択肢ルプキネス 他

016 日経DI カレッジ 通信

プレミアム版限定コンテンツ

PE007 医師が語る 処方箋の裏側

立効散を飲み込まず口をすすぐ指示を出す理由

PE008 現場のお悩み解決! 薬局人材マネジメント塾

若手が飲み会に来ない、交流を深めるには

PE010 目指せ! OTC48マスター

肌の乾燥、ヘパリン類似物質の剤形をどう選ぶ?

PE012 専門医が教える フォローアップの勘所【うつ病編】

うつ病における不眠の治療を知ろう

PE014 今月のDIノート

注目の新薬 スピジア点鼻液 5mg/7.5mg/10mg 他

PE016 薬局症例 カンファレンス

胃瘻造設の高齢うつ病患者、どう対応する?

PE020 症例に学ぶ 医師が処方を決めるまで

骨粗鬆症

編集部からの お知らせ

「プレミアム版限定コンテンツ」はダイジェスト版には掲載されていません。プレミアム版の購読(有料)は下記URL、QRコードからお申し込みください。

<https://nkbp.jp/DI2025>





コイケ薬局
(埼玉県草加市)

専任者配置し小規模薬局 で個人在宅に注力

施設に比べて訪問に時間がかかるなど「効率が悪い」とされる個人宅への訪問薬剤管理指導。埼玉県草加市にあるコイケ薬局は、在宅専任の薬剤師を配置することで、緩和ケアや医療的ケア児の調剤まで幅広く手掛けている。(河野 紀子)

私鉄駅から徒歩5分ほどにあるコイケ薬局(埼玉県草加市)。近隣に総合スーパーの「イトーヨーカドー」はあるが、比較的閑散とした商店街の中にあり、日中でも人通りはあまり多くない。1カ月の処方箋受け付け回数は平均2886回、集中度率は35%と面の薬局であり、薬剤師は8人在籍している。

コイケ薬局の訪問薬剤管理指導の年間患者数は、2019年度は個人宅を中心に30人だったが、23年度は124人、24年度は166人と徐々に増えてきた。直近の25年9月は91人に訪問し、うち医療保険は26人、介護保険は65人だ。

特徴的なのは、現在在宅患者は全て個人宅で、施設調剤は手掛けていない点。コイケ薬局を運営するコイケ企画代表取締役社長で在宅業務の責任者である薬剤師の上手友香子氏は、「この

地域は経済的に施設に入所できず、自宅で療養する高齢者がとても多い。がん終末期の患者や医療的ケア児への訪問依頼も徐々に増えてきており、当薬局はそうした人たちの受け皿になるべきではと考えている」と話す。

経営的には、1軒でも施設調剤を手掛けておけば、調剤報酬上の実績や処方箋枚数が確保できて「安心」とみる向きが多い。だが、コイケ薬局が在宅業務を本格的に手掛けるようになったのは比較的近いことで、その時、近隣の介護施設の調剤は大手チェーン薬局が既に担っており、新規参入が難しかったという事情もあった。

他職種連携の窓口は専任が担う

コイケ薬局では、ケアマネジャー(ケアマネ)や在宅医からの依頼があれば、車

で片道1時間以上など遠方でない限り、断らない方針だ。それを実現するために2020年に始めたのが社内分業制で、「在宅部」を立ち上げた(図1)。

もともと在宅部があった方がいいと助言したのは、創業者でコイケ企画会長の小池道夫氏だった。その理由は、在宅においては専門性が高い業務があり、それができる専門の薬剤師を社内で養成していく必要性があると考えたため。また、在宅でも病院に入院しているのと同じような高度な医療に対応できる薬局としての体制を築く狙いもあった。

・現在、上手氏と病院勤務歴のある薬剤師の計2人が在宅部の専任で、ケアマネや在宅医、訪問看護師と連携しており、病院の退院時カンファレンス、地域ケア会議などにも参加する。様々な職種からの連絡が多いため、電話とファクスは在宅部専用のものを用意した。

上手氏は在宅部設置のメリットについて、「外来業務が中心の薬局で在宅業務をやっていくとすると、朝か昼時、夜間しかできず、結果として依頼や細かい患者ニーズには十分応えられない」と説明する。

とはいえ、コイケ薬局では外来担当と在宅担当を完全には分けず患者宅への訪問と調剤に関しては全ての薬剤師が関わるようにしている。薬剤師は比較的

図1 コイケ薬局の概要と在宅業務の体制
(取材を基に編集部作成、処方箋受け付け回数と集中度率は2024年度)

コイケ薬局(本店)

- 処方箋受け付け回数：月平均2886回
- 処方箋集中度率：35%
- 薬剤師数：8人

コイケ薬局プラスワン

- 処方箋受け付け回数：月平均887回
- 処方箋集中度率：84.9%
- 薬剤師数：2人



無菌調剤室を2003年に設置。本店の患者の調剤は共同利用で行う

在宅部の 役割と特徴

- 専任の薬剤師2人体制。関係職種の問い合わせに対応。電話とファクスは店舗と別の回線を設置
- 緊急性の高いがんの患者などは在宅部の専任薬剤師が担当するが、患者への訪問は他の薬剤師に担当を振り分ける
- 患者の訪問は基本的に9～18時の間で残業なし。緊急時やPCAポンプ交換時、初回の訪問などは専任の薬剤師が行く
- 調剤は外来の合間に行う。無菌調剤は現在は週1回。一包化鑑査支援装置を搭載した分包機などを導入して負担を軽減

多いため、患者との相性によって担当する薬剤師を上手氏が振り分ける。

患者宅に訪問するのは9～18時。時間外の残業はさせず、緊急性が高かったり、医師が緩和ケアでPCA(patient controlled analgesia:自己調節鎮痛法)ポンプを交換したりする場合などは上手氏が訪問する。

在宅患者の調剤に関しては外来業務の合間に行う。在宅患者の増加も踏まえ、全自動PTPシート払い出しロボットや散剤調剤ロボットの他、2024年に鑑査支援装置を搭載した全自動錠剤分包機を導入した。コイケ薬局管理薬剤師の並木絹代氏は「新しい機器を入れたことで、一包化鑑査のストレスがなくなって、薬局全体で在宅業務に取り組んでいる」と語る。

同社の調べによると、ロボットの導入で鑑査や調剤の時間を27%減らした分、服薬指導や相談の時間を増やすことができたという。在宅業務をはじめ対人業務に注力していくためには対物業務の

効率化が言われているが、それを体現している。

また、コイケ薬局には、草加市内に系列店のコイケ薬局プラスワンがある(図1)。こちらは処方箋受け付け回数が月平均887回、薬剤師2人と小規模だが、無菌調剤室がある。現在では週1日、無菌調剤室の共同利用で、コイケ薬局の患者の調剤を行う。無菌調剤は在宅部以外の薬剤師もできるようにしている。

実は無菌調剤室を設置したのは今から20年以上前の2003年。当時から在宅業務のニーズを見込んで導入し、使用する機会はあったが、稼働率が高まってきたのは、訪問の件数が増えてきたここ数年のことだ。

地道な地域活動で信頼獲得

コイケ薬局に訪問の依頼が来るようになったのは、2018年に健康サポート薬局、2021年に地域連携薬局となったことが大きい。それを機に草加市、市内の地域包括支援センターと連携していく中で、

市内の介護予防把握事業に参画。具体的には75歳以上の来局者に健康などに関する調査を行い、認知機能の低下やフレイルといった健康に不安を抱えていて同意を得られた人たちなどを地域包括支援センターにつなぐ取り組みを行った。こうした地道な活動を通じて地域からの信頼が得られ、ケアマネをはじめとした他職種からの相談や依頼が増えた。

また、地域の医療職種の研修にも積極的に参加して、薬局の無菌調剤室の設備体制など周知し、「断らない在宅」をアピールしてきた。そこから、関係職種の間で紹介の輪が広がり、都内の在宅専門クリニックからの依頼で都内の病院を退院したがん患者の緩和ケアや、医療的ケア児に対する調剤の経験を積めるようになった。

非効率として敬遠されがちな個人在宅。だが、経営資源の選択と集中によって地域ニーズに則した薬局運営が可能になることを、コイケ薬局の取り組みは示している。

写真左からコイケ企画の小池道夫氏、上手友香子氏、柏村佳奈美氏、並木絹代氏。上手氏と柏村氏が在宅部の薬剤師を務める。

